（様式４）

教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 令和３年　４月　８日

グループ名	東京都学校保健経営研究会	フリガナ 代表者氏名	サイトウ　ユミコ 齋藤　由美子
学校名 （代表者）	足立区立竹の塚中学校	電話番号	03－3883－1251
研究テーマ	「学校保健・健康教育の推進を柱とした学校経営、学校教育に関する研究」		
研究期間	平成・(令和)　２年　４月　１　日　から　令和　３　年　３　月３１　日　まで		

研究結果の概要

※詳細は別紙により報告

＜研修報告＞

年４回の研修計画としたが、新型コロナウイルス感染拡大防止及び台風接近等の理由から中止せざるを得ない状況となった。

令和２年度　東京都学校保健経営研究会　研修報告

	日　時　・　会　場	内　容　・　講　師	人数
第一回	令和２年　６月２７日（土） （新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止）	「がん教育」 講師：東京都多摩教育事務所　指導課 統括指導主事　美越　英宣　氏 がんの子供を守る会　ソーシャルワーカー 社会福祉士　片山　麻子　氏	
第二回	令和２年１０月１０日（土） （台風接近のため中止）	「今、子どものからだと心は ～ データからみる子どもにとって大切なこと ～」 講師：日本体育大学体育学部健康学科 教授　野井　真吾　氏	
第三回	令和２年１２月　５日（土） １３：３０～　受付開始 １４：００～１６：００　講演会 １６：００～１６：３０　事務連絡 教職員研修センター	「学校で行う防災教育のあり方と今後の課題」 講師：学校安全教育研究所 教授（事務局長）矢崎　良明　氏	21名
第四回	令和３年　１月３０日（土） （新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止）	「組織を動かすリーダーのあり方とは」 講師：グロービス経営大学院　教授 株式会社グロービス　ファカルティ本部 シニア・ファカルティ・ディレクター 林　恭子　氏	

＜研究報告＞

会員に向けて、新型コロナウイルス感染症に対する各校の取組状況についてアンケート調査を行い、実践活動の紹介、今後の学校経営、学校教育に活かせるよう結果をまとめ報告した。（別紙参照）

その他特記事項

令和２年度　東京都学校保健経営研究会　自主研究

令和２年、この年がこのような大変な年になると、いったい誰が予測できたでしょうか。一つのウイルスが瞬く間に全世界に広がり、たくさんの尊い命が奪われていきました。また、全国の学校で突然、休校措置がとられることになり、通常行われるはずの行事や学習活動の全てが、中止や延期または縮小した形での実施となりました。

そしてやっと学校が再開となり、「新しい生活様式に基づいた学校生活」を軸に、コロナウイルスと闘いながらの生活が始まりました。この間、校長のリーダーシップの下、それぞれの学校において工夫をしながら、感染拡大の防止または感染予防のためにやるべきことを教職員が協力して進めてまいりました。また、取組みの中で養護教諭の果たすべき役割は非常に重要なものでした。

そこで、今年度の東京都学校保健経営研究会では、会員に向けて、新型コロナウイルス感染症に対する各校の取組の状況をアンケートにて調査するとともに、内容を紹介していただける方には、会誌の中で発表をしていただくことにいたしました。これにより、各学校でのコロナ対策の参考とし。今後の学校生活に是非とも生かしていただき、さらなる研究を深めていってほしいと思います。

今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大と台風等の悪天候により、本研究会の研修会も予定されていた４回のうち１回のみの開催となってしまいました。今後は、研修会の実施方法も含め、事務局で検討してまいります。また、皆様とお会いできる日を心待ちにしております。

※アンケート調査等のまとめにつきましては本研究会の会誌「かんな」に掲載させていただきます。会員の皆様と共有させていただきました。ご報告に際し、一部抜粋を掲載させていただきますことご了承いただきたく存じます。

（公社）東京都教職員互助会

＜アンケート調査等のまとめ一部抜粋＞

【健康診断で工夫したことや配慮したこと】

①校医検診

・密を避け、ソーシャルディスタンスを保った（２１）
・常時換気した。（９）
・一方通行にした。（４）
・服の上から聴診器を当てるようにした。
・学校医はフェイスシールドを着用した。
・内科校医の方針を徹底した。
・防護服を準備し、校医が着用した。（３）
・一人一人手袋を交換した。（２）
・歯科検診はダブルミラーで行った。
・眼科では児童生徒自身に目を下げるように指示した。（２）
・検診会場に入る人数を制限した。（１０）
・マスク着脱のタイミングを校医と相談した。（６）
・会場を広い場所に変更した。（５）
・生徒の検温を実施した。（２）
・校医の意向に合わせた。
・一人ずつ消毒した。
・一人一人手袋を交換した。（２）
・飛沫が飛ばないように名前を言わせないようにした。（２）
・時間設定に余裕を持たせた。（２）
・時差登校にした。（２）
・会話を控える、マスクの着用、前後の手洗いをすべての場面で実施した。（４）
・教職員・保護者に手指消毒、器具消毒、うがい薬によるうがい、体温確認の実施を周知した。
・アルコール消毒（生徒・校医・聴診器・介助者）手袋使用（３）
・消毒方法について養護教諭が中心となり、運営委員会や校医と確認した。
・検診に関わる教職員や看護師はフェイスシールドも着用した。（５）
・耳鼻科はマスクをずらして鼻だけ出し、のどの健診は省略した。（３）
・しゃべらない。お辞儀であいさつし、声を出さないようにした。

②業者による検診

・生徒の手指消毒と検温を実施した。
・フェイスシールドの着用
・いつもより広い会場を設定した。
・整列指導の徹底と会場への入室を制限した。（２）
・常時換気をした。
・裸足で行っていた検診は靴下着用と業者から言われた。（２）
・心臓検診でタオルは使用せず、本人の着ていた体操服を使用した。毛布も使用せず、ウレタンマットを１回ごとに消毒した。

③身体計測（視力・聴力も含む）

・今年は靴下を履いたまま計測させた。
・教室から数人ずつ抜き出して実施した。（２）
・体重測定時にパーテーションを使用した。
・分散登校中に身体計測及び視力・聴力検査を行った。（２）
・遮眼子を使用せず、手で覆った。
・学校により対応が違い教員が不満を持っている
・例年は全学年同時実施だが、今回は体育の授業内で行った。
・換気に気を付けた。（２）
・計測と視力検査は各教室の廊下で実施。（３）
・身長計測者のフェイスシールドを着用した。
・計測の流れを工夫した。
・手洗いの徹底をした。（３）
・遮眼子を使用せず、自分のハンカチで覆った。
・実施時間帯、教員の配置、消毒方法
・一人使用毎に器具の消毒を行った。（４）
・一方通行にした。
・視力：低学年は遮眼子を画用紙にし、使い捨てにした。中・高学年は１日１学級の実施にし、遮眼子を十分に消毒して使用した。入室は１人ずつに制限した。
・教務を中心に各クラスの学活時間を利用して、校内でできる検診を行った。
・通常は一斉に行う検診も２クラスずつ体育館で実施した。人の確保をするのが大変だったが学年を超えての手伝いを依頼し行った。
・聴力：パーテーションを使用し、一回ごとに消毒をした。入室を１人ずつに制限した。
・聴力ボタンを使用せず（聞こえた方の手を上げさせる）２人用でも１人実施にした。
・学年実施なし昼休み・放課後・学活等で養護教諭だけで実施した。
・待つときのソーシャルディスタンスを保った。（４）
・一人ずつ保健室に入れ、身長・体重・視力・聴力とまとめて受診した。

④その他

・共通：児童の待機場所を廊下にして床に目印を付けた。

・検診器具、計器の消毒や使い捨て器具に変更した。

・衛生材料の全校分の手配を区教委へ依頼した。

―全体の考察―

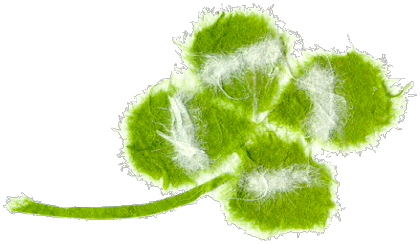
感染予防を講じながら、充実した教育活動を進めていくための知恵と工夫が求められ続けた一年であった。日々更新される新型コロナウィルス感染症についての情報や文科省、東京都教育委員会そして各自治体からの指示を踏まえながら、各学校の実情に応じて、校内での共通理解を図りながら、最善の策を講じようと努力した様子がうかがえる。確実な感染症予防対策と学校教育活動との両立を図るために、今後も、各自治体の関係機関、教育委員会や保健所、医師会等との連携を密にし、状況に合わせて柔軟に校内体制を整えていく必要がある。

今年度の健康診断においては、各自治体のマニュアルに則り、具体的な方法について校医の指導や助言を受け、児童生徒の発達段階や各学校の実態に合わせて決定し、感染防止を図っていた。来年度は、各校の実践とその検証を踏まえ、より効率的で効果的な健康診断の方法を考え、計画していくことができる。

健康観察については、児童や生徒の発達段階や実態に合わせ、各自治体から示された方法を基本として行っていた。年齢が低いほど、保護者の理解と協力が必要であるため、健康観察表等を工夫していた。健康観察は、来年度以降も継続される。保健管理の視点と同時に、児童生徒が自分自身の健康や公衆衛生への意識を高めるための保健教育の視点をもって活用したい。日々の感染症予防の指導においても、児童生徒が将来にわたって、主体的に、自らのそして周りの人たちの健康を守るための行動ができる力を育てていくことが大切である。

感染症予防と共に最重要であるのは、メンタルヘルスケアである。感染防止が最優先事項とされている学校において、この役割を十分には果たせていないと感じている養護教諭は少なくない。保健室経営の在り方を工夫する、児童生徒の小さなＳＯＳを見逃さない校内体制をつくる等児童生徒のメンタルヘルスケアについてさらに力を注ぐ必要がある。

未知のウィルスとのたたかいは、まさに手探り状態であった。だが、今年度一年間のそれぞれの学校での実践により、感染症予防策の知恵が蓄積されてきた。それらを都内に発信すること、そして、新たに見えてきた課題については来年度以降の本研究会の課題として取り上げ、その解決のために力を尽くすことが我々の役割である。



令和２年度東京都教育委員会研究推進団体　教育実践発表

東京都学校保健経営研究会

目的：学校保健経営および学校保健・学校運営・学校教育に関する研究・研修を行い、会員の資質向上を図るとともに健康教育を推進する人材育成を目的とする。

本会は養護教諭経験のある管理職･学校保健に関心のある管理職・主幹教諭(養護)・主任養護教諭・養護教諭・その他学校保健に関心のある教職員・医療関係者をもって構成する。

実践：研修会での資質能力向上　今年度　第１・２回の実施は中止となりました。

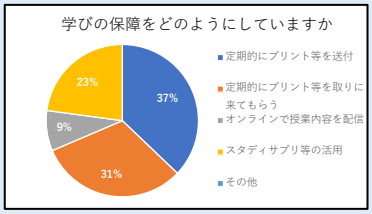
第１回　がん教育
統括指導主事　美越英宣氏
社会福祉士　片山麻子氏

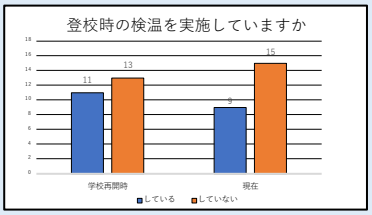
第２回　健康教育
日本体育大学
教授　野井真吾氏

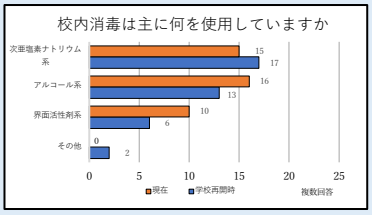
第３回　防災教育
学校安全教育研究所
教授　矢崎良明氏

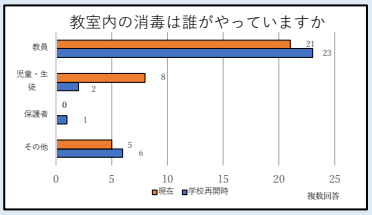
第４回　女性リーダーの交流
グロービズ経営大学院
教授　林恭子氏

新型コロナウィルス感染症対策　実態調査



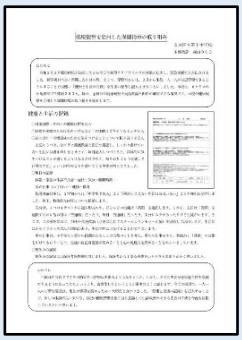






令和２年１０月実施　全１６項目 n=28

新型コロナウィルス感染症対策　実践報告



新型コロナウィルス感染症対策の最新情報や国や都の動向、実践事例を共有することで、迅速な対応に繋がりました。

成果と課題　：養護教諭のもつ専門性と経験を生かした保健教育や保健管理について、実践交流を行い、学校保健の重要性と情報収集や情報共有の大切を再認識することができた。養護教諭としての資質向上はもちろんのこと、課題解決のために、どのように発信し、組織的に対応力を向上させるかが課題である。組織の一員としての貢献力を高めたい。

＊今　後　の　予　定　＊

１月３０日(土)13:30 受付開始
『組織を動かすリーダーのあり方とは』
講師グロービズ経営大学院
教授　林恭子氏
右記の本研究会ＨＰ(ＱＲコード)
よりお申込みください。

【代表者】足立区立竹の塚中学校
校長　齋藤由美子
【連絡先】文京区立第十中学校
主幹教諭　森山みちる
０３(３９４４)０３７１
【ＨＰ】http://kannna.promole.net/